

これまでの論点の整理について

1 検討会の目的

金沢市立病院は、建築後30年あまりが経過しており、特に設備面での老朽化が進んでいる。一方では、金沢市を含む石川中央医療圏において、県立中央病院や金沢大学附属病院などの再整備が進んでおり、医療資源が充実してきている。そのような中で、地域の拠点病院であり、救急告示医療機関、災害拠点病院、感染症指定医療機関等の役割を担う金沢市立病院が、自治体病院として、長期的視野に立って、今後どうあるべきか、様々な検討を行う。

2 検討会の経緯

回（開催日）	主な内容
第1回 （平成30年8月28日）	<ul style="list-style-type: none"> 市立病院の現状について （概要・運営状況等） 病院内視察
第2回 （平成31年2月25日）	<ul style="list-style-type: none"> 石川中央医療圏における人口動態等について 公的病院に求められる役割と今後の課題について

3 主な意見等

○公立病院としての存在意義に関する意見

- 患者の住所地における偏在性は必ずしも高くない。
⇒金沢市における公立病院としての存在意義は失われていない。

○市立病院に求められる機能に関する意見

- 現在の市立病院の規模からすると、機能を特化させるべき
⇒例えば、
救急、災害拠点病院、政策医療、在宅医療については、公立病院として機能を維持すべき
- 高齢者だけでなく障害者や子どもも含めた在宅医療との連携が大切
- それぞれの病院、診療所が役割分担し、それをしっかりと住民に理解してもらうことが大切
- 経営の改善に向けた努力が必要

**（まとめ）**

市立病院は公的機能を果たしていることから、今後の役割・機能を整理した上で、再整備を視野に考えていくことが必要

**再整備に向けた課題**

- ① 良質な医療サービスを提供するための運営形態の検討
- ② 役割・機能の整理・見直し
- ③ 新しい役割・機能を踏まえた立地場所の検討